

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	人間関係の構築する教育にむけて「沐浴用赤ちゃん人形」の導入の効果に関する研究
------	--

研究代表者

氏名 鈴木琴子	所属 芸術・スポーツ科学系	職名 講師
------------	------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名
宇賀神佳子	中野区立緑野小学校	校長
根本節子	国分寺市立第十小学校	主幹養護教諭

【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）

H24年度に小学生に沐浴用赤ちゃん人形を使用した「育児ごっこ遊び」を行わせることで、人間関係を構築するための一つの方法を探るための調査を行った。現代の子どもたちは、ゲームやインターネットの普及により、他人と交流しながら遊ぶといった体験が少ないという状況にある。調査結果では、本物に近い物品を使用しての他人との関わり体験を計画的に設定し、体験する機会をふやしていくことは、子どもの生きる力を養う上で効果があると考えられた。このため、小学生に母級学級などで沐浴の演習に使用される赤ちゃん人形を中心とした「育児ごっこ遊び」を行うことで母性を育み、人間関係を構築する基礎的な社会体験となると考え、本研究を継続して実施した。

調査方法は、茨城県南部にある取手市立六郷小学校の4年生を対象にし、道徳の授業において実施をした。1クラス31名を、赤ちゃん人形に対する行動を「おふろ」「おんぶ」「ミルク・おむつ替え」の3つとして、それぞれ2班ずつ、計6班にわけて行った。授業時間内で赤ちゃん人形および沐浴槽やおんぶひも、哺乳瓶、おむつなどを自由に使って“ごっこ”遊びを行い、その行動および会話をビデオカメラに記録をした。また、児童の母親8人をそれぞれの班に配置し、見守り（沐浴の手順などはアドバイスをお願いした）および安全性の確保をおこなってもらった。

ビデオ分析の結果、赤ちゃん人形に対して興味を見せる児童がほとんどであり、昨年度のような攻撃的な態度を示す児童はいなかった。興味を見せる児童は、男女の差はなく、特に興味を示している児童は、赤ちゃん人形に対し、赤ちゃん人形の大きさや細かい作りに特に興味を示し、自分の手の大きさと比べるなどの行動をしていた。また、おむつの取り替えや、おふろに入れる際に、「顔に水がかからないように手で保護をする」や少し乱暴に扱ってしまった児童に対し、「かわいそうだよ」との反応を見せるなど、非常に丁寧な取り扱いをしていることがわかった。また、一部に最初は積極的な関わりを見せないものの、周囲の児童や大人に促されると関わりを持ち始め、ふざけることなく対応をしていた。最後のまとめの感想においては、実際の新生児に近い大きさの人形であるためか、重かった、おむつ替えがたいへんだったなどの言葉が聞かれた。

このような結果から、玩具としての人形ではなく、新生児の身長体重に合わせた本物の状態に近い「沐浴用赤ちゃん人形」および「実際に使用される子育て用品」を使用することは、「遊び」という設定ではあるものの、子どもたちに現実の状況を感じさせる体験を与えられることが示唆された。このことから、沐浴用赤ちゃん人形を使用した授業や時間を設定することは、現代の子どもたちに「生きる力」を育むための一つの方法として提示できると考える。その際に、グループ構成やファシリテーターが介入することの影響について検証することで、今後の「ごっこ遊び」による人間関係の構築をする教育の方法について寄与できると考えられる。今回は、対象を小学4年生として、45分間の授業の中で行った。今後は、授業時間の持ち方および事前事後の説明などを工夫することで、小学校の授業の中でどのように発展させていくかを検討していくことが課題と考えている。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]
※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

母性衛生学会（2014年9月千葉）にて発表予定。